



多くのことを学び、日本の良さを知った

海外研修

21世紀の光町を担う中学生に国際的視野を広げることと教職員の資質の向上と国際感覚の育成を目的に今年も夏休みを利用しての海外研修を行いました。中学生は、シンガポール（3泊5日）2人、アメリカホームステイ（30日間）2人、オーストラリア（4泊5日）5人、教職員はアメリカ（マサチューセッツ州立大学研修）2人の方々が参加しました。

アメリカで感じたこと

ホストファミリーは温かく
充実した一カ月

3年 椎名 知子

アメリカは、私が一番最初に覚えた国であり、ずっと行ってみたと思っていた国でもあった。

今回この交換留学生に応募した理由は、前の二つも



オーストラリアに行つて

自分の意見をしっかりと
相手に伝えることの重要性

3年 椎名 信行



ケアンズのクルーズディナーにて

をおくることのできることだったからだ。

観光や旅行では決してあじわえない事もたくさんあったと思う。

まずアメリカで一番最初に感じたのは「自由」ということだった。別に規則がゆるいというのではない。

ましてアメリカは、ノースモーキングが当たり前であるし、未成年の飲酒も厳しく取り締まっている。私の思う「自由」は、「個性の主張」についてだ。

日本はどちらかといえばきちつと形におさまるのを

ホームステイ先の
ドールさん姉妹

はくが、オーストラリアに行つて一番印象に残ったことは、やはりケアンズ高校に体験入学したことだ。

一番最初に感じたことは向こうの生徒はとても明るくとても日本語が上手なことだ。それはほくが英語で話すと日本語で話し返してくれるからだ。あと日本語の授業では、雑誌を切りぬいて、それに写っている人のかつこう（洋服など）を日本語で書いて読むんだ

好むが、アメリカはそれぞれの人が、それぞれの個性、その人間性を自由に表現しているのである。要するにその人自身の考えや、人間性を尊重しているのである。これはとても大切なことだと思つた。このうすることによって、その人は自分自身に対する責任のようなものを持たざるをえなくなり、責任感や自立心が生まれるのだと思つた。

日本は、統制や規則が多いと思うが、積極性に欠けたり、責任重大な仕事を任されるのをいやがる人が多いのは、そこからきている部分もあると思う。

またアメリカの人々は、積極的思考を常に頭において、「とにかくやってみよう」というチャレンジ精神が強かつたと思う。「やらずに後悔するなら、やってみて後悔しろ」という言葉があるが、まさにその通りなのだ。

です。

今回オーストラリアに行つてみて、自分の意見をしっかりと相手に伝えることがとても重要なことだとわかりました。これからは自分の意見をハッキリ言うようにしていきたいです。

最後にオーストラリア研修に参加させていただき、関係各位の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

秋の茄子は味がよく、もったいないから嫁なんかには食べさせると、姑の側から言うことば。

●一説に、秋の茄子は体を冷やすといけなから、あるいは種が少ないので子種が少なくなるから嫁に食べさせてはいけな意とも言う。



あき なすび よめ
秋茄子嫁に食わすな